

## 今シリーズ展開中は、 「教学改革実態調査」で全国の大学に伺います

今号の特集はいかがでしたでしょうか。シリーズ「学習者中心の教学改革を推進する」の展開中、高等教育研究室VIEW21大学版編集部では、『VIEW21』をお送りした全国の大学を直接お訪ねし、右記のような内容のヒアリング調査を実施しています。小誌編集部からの連絡がありました際には、ぜひとも、調査へのご協力をお願いいたします。

### ヒアリング内容

- 教学改革の現状
- 教学改革の課題
- 改革の成果
- 今後の改革の方向性 など

### 編集後記

◎今回の特集で取材した山田剛史先生のお話の中で、過干渉でもなく不干渉でもない距離感というのがありました。親になると誰しもが、子どもとの距離感で悩む部分です。家庭でも、子どもの面倒を見過ぎて本人が自立できないといけないうし、かといって、面倒をあまり見ないで、素行が悪くなってしまってもいけません。大学での学生との接し方もまさに同じです。程良い距離感で、学生の自立を促すということが大切です。自分も、何十年も前に大学生だった頃、やはり失敗をしながら成長した記憶があります。失敗によって、自分一人で生きていくことの責任を学んだように思います。人は、自ら道を切り開くことによって成長します。このような自己決定を、学生が自らする機会をしっかりと作りつつ、何か問題になりそうな時には手を差し伸べることが出来る環境、そんな状態を正課外まで含んだ形で作りあげることが、大学に求められていると思います。

(広瀬)

◎ここ最近の大学入試の特徴を表すキーワードの一つが「安全志向」です。景気回復のスピードが遅く、教育課程の移行などによる入試制度変更も重なって、「確実に合格できる大学」に出願する受験生は少なくありません。「最近の受験生にはチャレンジ精神が足りない」と嘆く声をいただくこともあります。必ずしも入試の難易度だけを理由に「安全」な選択をしている受験生ばかりではありません。出願先に悩む高校生やその保護者の方々と実際にお話をすると、こちらが驚かされるほど志望校の教育プログラムをきちんと調べていることが多いのです。その観点も、いわゆる正課の内容だけでなく、留学や資格取得の支援体制からサークルの充実度合い、キャンパスの雰囲気まで多岐にわたります。自分の将来の夢を実現するための教育プログラムがどの大学にあるのか。「安全志向」の中でも、その視点をもって大学を選択する受験生は増えつつあるようです。

(村山)

### 次号は6月下旬発行予定です

VIEW21 大学版 2015 Vol.1 春号

2015年3月18日発行/通巻第11号

発行人 山崎昌樹

編集人 春名啓紀

発行所 (株)ベネッセコーポレーション  
ベネッセ教育総合研究所

印刷製本 (株)ビーヴィオコーポレーション

編集協力 (有)ベンダコ

執筆協力 二宮良太  
撮影協力 川上一生

VIEW21大学版 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2丁目1-1 新宿三井ビルディング14階  
編集部 電話 ☎03-5320-1191

©Benesse Corporation 2015